

未来の子どもたちに残したいマチへ マチごとエコタウン所沢

第35号



環 境 会 報

所沢市環境推進員連絡協議会

会長あいさつ「プラスチックごみ削減宣言がされました」

所沢市環境推進員連絡協議会 会長 毛利 吉成



会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。日頃、当連絡協議会事業運営にご協力を賜り厚く御礼申し上げる次第です。

また、地区環境推進員協議会会長並びに役員各位におかれましては、事業運営ご理解のうえ多大なるご指導ご鞭撻をいただき地域住民の理解に向けての情報発信等、惜しみないご協力をいただいております。心から感謝申し上げます。

環境推進員は、責務でもある地域の環境美化、ごみの減量・リサイクル、資源化、再使用に向けての協力や各種キャンペーンや環境講演会等を通しての啓発活動。そして、所沢市民が同じ目的で参加する「環境美化の日」の一斉清掃活動。また、過度な資源依存から。ものを、大切に使う「もったいないの心」を醸成し化石燃料に頼らないライフスタイルの見直しを図って、「善きふるさと所沢」の住民としてオピニオンリーダーとしての意を体した顕著なコミュニティー活動なども実行しております。

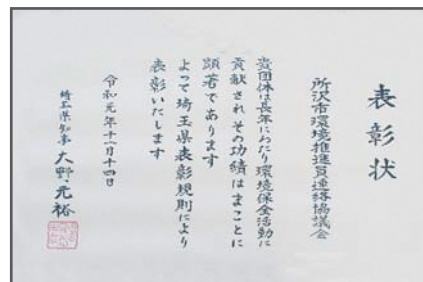
このような長年にわたる地道な活動に対し「所沢市環境推進員連絡協議会」は、昨年11月

14日、「令和元年度県民の日」に“環境の保全に貢献しその功績が優れたもの”と所沢市長の推薦によりに埼玉県知事表彰の栄を授かりました。これ偏に、環境推進員各位の長年にわたる活動いただきました方々の賜物と思う次第です。

また、所沢市が展開している「人と人、人と自然との絆」を紡いでいく「マチごとエコタウン所沢構想」は、対象期間5か年を経過、未来の子供たちに残したい街へ・目指すべきマチの姿として個別目標を達成しながら推進してきました。この所沢市の施策展開にあたり、「持続可能性を高める小さな一歩」とSDGs先進度調査において、全国815市区を対象に実施された調査で所沢市が環境部門全国1位に輝いています。誇らしいことです。

希望や願いをもって令和を迎えました。

新たな環境課題の一つに「マチごとプラスチックごみ削減」が宣言されました。この施策展開にも積極的な活動をしていかなければとご理解とご協力をお願いする次第です。



令和2年度 「環境美化の日」の日程

生活環境課

春の「環境美化の日」 令和2年 5月31日(日曜日)
秋の「環境美化の日」 令和2年 11月1日(日曜日)

皆様のご協力をよろしく申し上げます！



所沢市はプラスチックごみ削減に取り組んでいます。
—皆様のご協力をよろしく申し上げます！—

「マチごとプラスチックごみ削減展開中!」

プラスチックごみ削減タスクフォース

平成30年12月、所沢市は未来の子どもたちに美しい川や海を残せるよう「マチごとプラスチックごみ削減」に取り組むことを宣言しました。まず、市役所では各所属において、会議等開催時にペットボトル使用の自粛を呼びかけました。また、各職員に対しマイボトル持参でノーレジ袋、マイ箸・マイスプーン・マイボトル持参などを呼び掛けました。

さらに、事業者への協力依頼や各種イベントでの周知活動、各種団体への働きかけ、出前講座などに取り組んでいます。

この取り組みの中で、マイボトル持参を推進するため、本庁舎や市内公共施設に給水スポットとしてウォーターサーバーを設置。

「キャンドルナイト」では、出店者に販売用カップを生分解性プラスチック製の容器などの代替品で対応していただきました。また、「市民フェスティバル」では『所沢から出る海のプラ

ごみストップ』をテーマに出店者に呼び掛け、プラごみ削減に大きな成果を得ました。

このように、少しずつですが成果が現れてきています。

今後も、普及啓発活動を行い、市民や事業者の方々の中にプラスチックと賢く付き合う意識を醸成することで、使い捨てプラスチック等の使用抑制（排出抑制）を図ってまいります。皆さんのご協力をお願いします！



環境講演会「プラスチック問題について」

松井地区環境推進員 越阪部 眞

早いもので立春を過ぎ暖かい日差しの2月5日（水）、所沢まちづくりセンターホールにおいて令和元年度環境講演会が約300名の来場をいただき開催されました。

今回は「プラスチックごみ問題の現状と私たちにできること」をテーマに国立研究開発法人国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター副センター長寺園淳氏を招き世界と日本で関心が高まっているプラスチックごみ問題について、どのような現状にあるのかを分かりやすく解説いただき、これから私たちができることは何かを教えてくださいました。

まずは、ごみ（廃棄物）の何が問題か？ごみにはいろいろな種類がありますが焼却で出る有害物質・処理施設の確保・分別が面倒・衛生問題など。

つぎに、プラスチックの何が問題か？生態系への影響（海洋プラスチック）・温暖化・そもそもは大量生産・消費・廃棄の構造など。そして、プラスチックのフローと処理について・・・プラスチックの生産・排出から回収・リサイクルの手法など。

最後に、私たちにできること・・・所沢市でのごみ分別（リサイクルに協力）・プラスチックごみを減らす。日本の取り組み・世界のプラスチック対策などを聞くことができ大変勉強（参考）になりました。

この他、各地区及び所沢市が「プラスチックごみ削減に向けた取り組み」について事例発表がありました。①会議やイベントなどでペットボトル飲料の使用を止めマイボトル持参を呼びかけたり、給水器などを使用しました。②もったいない市で出た古着・古布を活用して作成した「手作りエコバッグ」を配布。（大変喜ばれました。）③ごみが河川を通じて海に流れ込む前に取り除く河川清掃活動をしております。④市役所庁舎・まちづくりセンター内に給水スポットを設置、また、エコバッグ利用を推奨しております。⑤屋外イベントで使い捨てプラ容器不使用や会場のごみ拾い活動もしております。（これは一例です。）“所沢から海ごみゼロへ”・・・所沢市環境推進員連絡協議会としては、この取り組みに積極的にチャレンジしてまいります。そのためには、市民の皆様引き続き、ご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。



環境展示会「エコプロ2019」感想文

吾妻地区環境推進員 日橋 忠洋

令和元年12月5日(木)、この時期にしては、暖かく穏やかな一日であった。子供の頃は、寝ている掛布団が寝息で凍ったり、軒下には氷柱が下がっていたりと、もっと厳しい寒さであったと記憶している。これも地球温暖化のせいなのか危惧している。

エコプロとは、環境型配慮製品・サービス(エコプロダクト・エコサービス)に関する展示のこと。展示物は、各社が開発した省エネルギー機器やリサイクル・リユース製品などの展示が主体となっている。

今回のエコプロ2019の大きなテーマは、「持続可能な社会の実現に向けて」である。その中で私が着目したのは、海洋プラスチックごみ対策について、削減やリサイクル・リユースしている企業や団体のブースをメインに見学をさせて頂いた。

クジラの胃袋から大量のプラスチックごみが発見されたり、ウミガメの鼻にストローが刺さった衝撃的なニュースも報道されている。

また人間にも影響が出始めている。マイクロプラスチック(5ミリより小さいプラスチック片の総称)が人体にも入り便から検出されている。人間が捨てたプラごみ⇒川に流れ込む⇒海に流れ着く⇒プラごみが砕けてマイクロプラスチックに⇒魚が食べる⇒人間が魚を食べ、便からプラ片が検出。などといった悪循環になっている。

ペットボトル飲料を買わずマイボトル持参に

変えたり、会議室にはウォーターサーバーを設置したり対応は始まっている。レジ袋については、今年の7月から有料化になります。最近では、スーパーなどでマイバックを持参される人が少しづつではありますが目立つようになってきました。

これからは、食品トレーの削減やリサイクルについて目を向けていく必要があるかと考えます。スーパーなどでは多くの食品トレーを使用しています。株式会社エフピコでは食品トレーの循環型リサイクルを行っています。「食品トレーを洗って、乾かして、回収ボックスへ」、トレーからトレーに生まれ変わる。食品トレーのリサイクルは手間がかかる作業ですが環境推進員として、未来のために、やれることは始めたいと思います。

本来であれば、紙製品や経木などで衛生的で保冷・保湿性に優れた容器が開発される事を期待しております。

プラスチックごみの削減に向けて、市民の皆様のご協力をお願いいたします。



EVパッカー車

収集管理事務所

昨今、地球温暖化や大気汚染、海洋プラスチック等の環境問題について取り上げられる機会が増え、世界の関心もより一層高まってきています。

所沢市ではこうした問題について、「マチごとエコタウン所沢構想」を掲げ、プラスチックやCO2排出量の削減等の取り組みを行っているところです。

平成31年4月より低炭素化事業の一環として、全国でも初めての電気式ごみ収集車(EVパッカー車)の運用を開始しました。この電気式ごみ収集車は、東部クリーンセンターでごみを焼却した際に発生する熱を利用して発電した電気を使い走行するため、従来の収集車両で発生していたCO2の排出をゼロに抑えられます。加えて、静音性が高く、小型なため、狭隘な道路の収集やお祭りのごみ、小中学校の落ち葉等の特別収集にも活用しております。また、100Vのコンセントを繋げることで、電気を供給することもできるため、災害の際は非常用の電

源としての活躍が期待されています。

市民の皆様に向けた、環境への啓発としては、市民フェスティバル等の催事で電気式収集車の展示と乗車体験を行い、大変ご好評をいただきました。

所沢市では、今後も再生可能エネルギーの活用及びCO2の削減等、環境に配慮した施策を推進してまいりますので、ご理解・ご協力のほど、お願いいたします。



視察研修 (ハッ場ダム)

所沢市環境推進員連絡協議会



視察に参加した環境推進員の皆様

令和元年11月7日(木)
群馬県吾妻郡長野原町

「マチごとエコタウン所沢構想実績報告」 環境政策課

所沢市では、平成26年3月に策定した「マチごとエコタウン所沢構想」に基づき、「人と人」、「人と自然」との絆を大切にする「エコタウン」を築いていくために、「エネルギー・みどり・資源循環」に関するさまざまな取組を実施してまいりました。

その取組を市民の皆さまに広く周知するために、同構想の計画期間（平成26年度～30年度）における事業実績を冊子にまとめましたので、お知らせいたします。

事業の実施に際しては、環境推進員の皆さまに多大なるご助力を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。本冊子は、環境政策課でお配りしているほか、市のホームページでも公開しておりますので、ぜひご覧ください。

また、本年度より「マチごとエコタウン所沢構想」は、環境基本計画と統合され、「所沢市マチごとエコタウン推進計画」としてスタートしております。「脱炭素社会の実現、みどり・生物多様性の保全、循環型社会の形成」などの達成に、より一層のご助力をいただくとともに、市民や事業者の皆さまの環境配慮意識醸成のため、引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。



編 集 後 記

今年の7月から小売店でのレジ袋が有料化される。所沢市では「所沢市マチごとエコタウン推進計画」の精神に基づき、プラスチックごみの削減に取り組んでいる。昨年、SDGs先進度環境部門全国1位に選出された所沢市、環境保全団体として地道な日頃の活動が評価され県知事表彰を受けた市内計1,122名からなる環境推進員の構成団体「所沢市環境推進員連絡協議会」は引き続きプラスチック製品の利用を減らし、海へのゴミを減らす運動・啓発に取り組んでいる。

編集委員（◎印は委員長）

◎宮高 隆（並木）、久下 紀世（新所沢）、
新居 亨一（山口）

事務局：所沢市 環境クリーン部 生活環境課

☎04-2998-9370

所沢市のホームページ

<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>

トップページ ⇒ くらし ⇒ 環境・みどり

⇒ 生活環境 ⇒ 環境推進員連絡協議会についてを
選択してアクセスしてください。